

島津斉彬・久光兄弟

に対する

松平春嶽の人物評

松平春嶽は、明治維新後、著作活動に励み、その著書の一つである随筆『逸事史補』には、幕末から明治に活躍した人々の人物評が記されています。様々な人物が登場しますが、その中で春嶽が最も尊敬する人物として記されているのが、盟友、島津斉彬です。

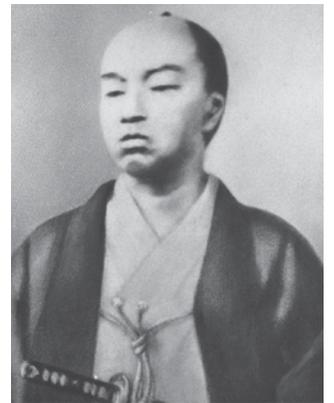
斉彬は、老中阿部正弘などと結び幕政改革・公武合体を図り、將軍継嗣問題では春嶽とともに一橋慶喜擁立に奔走した幕末の名君の一人です。『逸事史補』では、「明治維新の成功はすべて斉彬の功である。」「肝が大きく、才智より道徳を重んじた。」「穏やかで慎重深く、学問に通じていた。」「尊皇家でありかつ佐幕



島津斉彬肖像 (尚古集成館蔵)

家」「西郷隆盛、大久保利通は、斉彬が丹精して育てた人物」「節約家だが、必要に応じ、大金を惜しげなく使った。吝嗇家(ケチ)ではない。」「などと評し、その見識や人材登用に對する尊敬の念と信頼の厚さが感じられます。

一方、斉彬の死後、若き藩主の後盾として藩政をリードした、弟の



島津久光肖像 (国立国会図書館蔵)

島津久光については、「悪口を言う人も多いが、斉彬と同様に才智より道徳を重んじた。」「尊皇の志は斉彬を超えている。」としながら、それ以上の評価や逸話を記載することは行いませんでした。「かえって悪くとられるといけないのでわざと記さない。」と理由を述べていますが、斉彬と異なり、心から尊敬できる人物とは描かれていません。

そのことを示す逸話が『逸事史補』に残っています。久光の密書に關する内容です。当時、その密書は、幕府隠密によって探し出され、將軍徳川家茂、慶喜、老中、春嶽など限られた人物のみ目にしたものでした。久光の密書には、「もはや徳川家だけではこれまでの治政を保つことが困難」「公家政治では混乱するから、五大老(徳川慶喜、山内容堂、松平容保、島津久光、毛利敬親)を立てるしかない。」「五大老の中で人望のある者が將軍になることもあるだろう。」と書かれています。

関連史料・ゆかりの地

養浩館庭園



養浩館は、別名、御泉水屋敷といわれ、江戸時代に福井藩主越前松平家の別邸だったところ。松平春嶽もしばしば訪ねたこの屋敷。その庭園は、回遊式林泉庭園をそなえ、江戸時代中期を代表する名園の一つとして知られています。

【住所】福井市宝永3丁目11-36 (JR 福井駅より徒歩15分)

した。春嶽は、「島津の存念は終始変わらず」として、常に国の実権を担おうとしていた久光の野心を見抜いていたといわれています。斉彬、久光、二人に仕えた人物の一人が西郷隆盛です。斉彬から厚い薫陶を受けていた一方で、久光については、その面前で「ジゴロ(田舎者)」と評するなど相当の確執がありました。春嶽と西郷の久光評、相通じるところはあるのでしょうか。